

## 平成 30 年度 学校経営方針における本年度の重点目標についての実施状況

※「達成状況」の項…◎上回った、○計画どおり、●下回った

1 地域提案を活かした学校づくりを進めるための連携体制の改善と強化	
目標	達成状況
(1) 「白馬高校支援係」との連携の深化。 (2) 校内補習体制の充実と公営塾との連携の強化による効果的な学習指導の展開。 (3) 寮生に関する教育寮との綿密な情報共有。	(1) ○ <u>全国募集活動（東京銀座3回、仙台・名古屋・大阪各1回）</u> では、支援係と協働して多くの来場者を迎え展開することができた。 ○ <u>デュアルシステム実習および高校生ホテル実習</u> では、「 <u>みらい協育サポーター</u> 」との <u>接続・調整</u> により、円滑な実践につなげることができた。● <u>グローバル講演会の企画・運営</u> 。（2回）○ <u>はくばフォーラムの開催・調整</u> 。 (2) ◎平日時間外や週末日でのしろうま塾（時間外補習）により、学力の底上げを図ることができた。7時間目補習は、全学年にわたり進学補習とD3補習を併設して実施した。結果、昨年度に比べ、 <u>模擬試験受験者数増を図ることができた</u> 。◎生徒一人ひとりの進路実現に向け、 <u>公営塾と学校（学年・教科）との連絡会を定期開催</u> し、補習授業の内容と進捗状況の共有を図ることができた。 ◎ <u>1期生の大学進学実績について、AO・公募推薦入試等を活用し、27人の生徒が四年制大学に進学することができた</u> 。また、 <u>長野県立大学に合格する生徒や、国公立大学を目指して大学センター試験に挑戦する生徒（5人）</u> を育てることができた。 (3) ○ <u>寮生徒指導連絡会を定期開催し、生徒一人ひとりに関する綿密な情報交換を行った</u> 。（10回）また、共有された情報をもとに、 <u>スクールカウンセラーとの面談を実施することができた</u> 。（夏季休業前後、12月）●寮への宿泊やミーティングへの参加について、年度当初は企図することができたが、定期的には実施することができなかった。
2 効果的・積極的な情報発信と地域・小中学校との交流の促進による開かれた学校づくり	
目標	達成状況
(1) 地元中学校への本校の学びを伝える積極的な情報発信への取り組み。 (2) 地元小中学校の学習活動への参加・協力に関する取り組みの工夫。 (3) 小中学校の保護者への本校理解への取り組み。 (4) 地域の行事、活動を通じた児童・生徒・地域住民との交流機会の活用。	(1) ◎ <u>小谷・白馬両中学校へ出かけ、普通科および国際観光科生徒が学校説明のプレゼンテーション</u> を行い、地元中学生に白馬高校の特色ある学びを伝えることができた。（2回）◎ <u>両村広報紙に「Report Channel（高校現況報告）」</u> を掲載いただくなどの広報活動を展開することができた。 (2) ◎ <u>小学校のPTA バザー運営補助として、生徒が行事に参画することができた</u> 。（1回：8人）小谷・白馬両中学校の総合発表会を参観することができた。（校長・教頭） (3) ◎ <u>地元小中学校のすべての家庭に「SHINRO FOCUS」</u> を配布し、特色ある授業内容や、進路・学習指導体制の理解を深めることができた。（4回）◎ <u>しろうま祭</u> では、合唱コンクールや各種団体の発表・展示が好評で、地元来場者が大幅に増加した。 <u>（H29：776人 → H30：1155人）</u> (4) ◎ <u>日本酒プロジェクト田植えツアー（ユニバーサルツーリズム推進事業）、サイクリングフェスタ、サマージャンプ、塩の道祭り、アドベンチャーレース・ジャパン・イン・ナガノ 2018（日本初開催）、信州アフターDC（花三昧イベント案内）、白馬村民運動会、北アルプス山麓秋の物産展など様々な交流を行うことができた</u> 。

3 コース制の特色を活かした探求的な学習活動の展開とカリキュラムの改善	
目標	達成状況
<p>(1) 外部指導者の活用による探求的な学習活動の充実への取組み。</p> <p>(2) コース選択での資格取得に向けた取組み。</p> <p>(3) 生徒の主体的な活動の充実に向けた取組み。</p> <p>(4) 授業改善に向けた職員研修の実施。</p>	<p>(1) ○<u>授業での活用時間数の増加</u>。(観光、環境、英語、中国語、韓国語、山岳、アウトドアスポーツ、家庭科、イングリッシュデイ、高校生ホテル)</p> <p>(2) ○<u>英検2級(準2級)の取得促進</u>、高校生ホテルと関連させてサービス接客検定取得 <u>英語実用検定(2級 10人、準2級 28人、3級 11人)</u>、漢字検定(準2級 1人、3級 1人)、全商簿記実務検定(3級 6人) 日本語ワープロ検定(準2級 3人、3級 6人)、日検情報処理技能検定表計算(3級 10人) 全経電卓計算能力検定(2級 1人、3級 9人)、全経社会人常識マナー検定(3級 3人)、語彙力・読解力検定(3級 8人)</p> <p>(3) ○<u>山岳部、ダンス部、プロジェクト学習部の活動(今年度、同好会から部へ昇格)</u> 山岳部(部員 8人: 山行 7回、白馬連峰開山祭にて白馬村観光課の運営サポート、ピーコンによる探索訓練等実施)、ダンス部(部員 6人: ダンスフェスティバル、村内イベント参加等)、プロジェクト学習部(部員 15人: 観光甲子園 2チーム出場、信州大学連携事業 PBL 合宿「地域「課題」を編む」ワークショップ実施、白馬村ワークショップ「百馬力」2回参加等)</p> <p>(4) ○Classi を活用した学習通信や課題の配信、教員間の学習指導内容の共有など、昨年度よりも利用の促進をはかることができた。 ○発達に関する課題を抱える生徒に対する指導法と授業におけるユニバーサルデザイン化と合理的配慮についての研修会を実施することができた</p>
4 観光における地域・企業・大学と連携した系統的なキャリア教育の構築	
目標	達成状況
<p>(1) みらい協育サポーターとの連携事業の具体化。</p> <p>(2) 高大連携の拡大に向けた取組み。</p>	<p>(1) ◎サポーター企業の協力のもと、<u>国際観光科3学年では5人の生徒が「デュアル実習」を実施</u>。また、2学年では「<u>高校生ホテル実習</u>」を実施することができた。来年度はサポーター企業と連携した「<u>食企画(リゾートホテルレストラン商品企画)</u>」を計画。</p> <p>(2) ◎<u>東洋大学出張講義を実施</u>。観光を大学で学ぶ意義についての理解の深化。◎文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクトチームトビタテ! 留学 JAPAN ディレクターと8大学から留学経験がある学生を招き、海外で学ぶことの魅力や意義をはじめ、グローバルマインドをどのように養うのかを目的に「<u>白馬高校 トビタテ! みらいフォーラム</u>」を2月27日に開催。</p>
5 きめ細かな支援と相談体制の充実による安全・安心な学校づくり	
目標	達成状況
<p>(1) 生徒状況の把握と必要な生徒への支援の実施への取組み。</p> <p>(2) 地域と共にある白馬校生としての自覚を喚起する取組み。</p>	<p>(1) ○<u>スクールカウンセラー重点派遣校</u>に指定され派遣時間数を <u>82時間から 96時間に追加配置</u>していただき、心に悩みを抱えている生徒に加え、<u>寮生の定期カウンセリング</u>を実施した。○発達障がいへの理解と具体的な生徒支援について専門家を講師に招き、2回の校内研修を実施し、<u>支援係、舎監、ハウスマスターとともに学び、支援体制を整えた</u>。</p> <p>(2) ○ボランティア活動等を通じ、地域とのつながりの大切さや地域からの絶大な支援についての指導を継続して行っている。●<u>基本的な生活習慣の確立について、特に寮生一人ひとりに対する手厚い手当てが必要になってきている</u>。</p>

